



令和5年1月17日(火)



校長室より(148)

こんにちは。

28年前の今日の朝5時46分に「阪神・淡路大震災」という阪神地方を中心とする大地震がありました。この大地震は、まだ寝ている時間帯に起きたのでダンスなどの家具の下敷きになって亡くなった人や、火事が起きて燃え広がって家屋が焼失する被害がたくさんありました。

5時46分、とうとうその時が来てしまった…。「ど～ん！！！！？」阪神・淡路大震災発生である — 揺れる！揺れる！縦に、横に、僕はすぐに目が覚めたが寝ぼけていて、親父がベッドを揺らして、いたずらしていると即座に思った。もしくはなんらかの夢を見ていると思った。しかし違っていた。その後も揺れは続き、激しく揺れた。そして沈黙が訪れ、音のない世界が広がった。しばらくして奥の部屋から親父がやってきた。「大丈夫か？」まだ状況をつかめていなかった僕は、いつもどおり「おはよう」と言ったのを今でも覚えている。不思議に動揺することはなかった。部屋の中はぐちゃぐちゃ、本棚は倒れ、台所はガラスの破片が飛び散っていた。家の中を移動するには靴もしくはスリッパを履く必要があった。当然、電気、ガス、水道、ライフラインのすべてがやられ、電球はつかないしストーブもつかなかった。

その日は、朝から結構冷え込んでいたので、とても寒かった記憶がある。電球の代わりにろうそく懐中電灯で部屋の明かりをつけていた。唯一の情報源がラジオで、何か流れていたのは覚えているが内容は忘れてしまった。その日の昼には電気が回復し、ストーブやテレビが使えるようになった。しかし、水道とガスは回復が遅く、すぐには使えなかった。水道が使えないのはとても不便だった。テレビに映ったのは町が燃えている様子で、とても悲惨な光景だった。今まで見たことのない光景だったので僕はテレビに釘づけになってしまった。夜になっても、テレビは空中から燃える町を放送し続けた。

これは、当時小学2年生だった子が、9年後の高校3年生になって書いた作文です。そのときの様子が、よくわかりますね。

(「防災教育チャレンジプラン」ホームページより)